

会議記録（公開用）

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 26 年 2 月 28 日(金曜日)	開催時刻	13 時 30 分から 15 時 35 分頃まで
会議名	丸子地域協議会(平成 25 年度第 12 回)		
出席委員	斎藤重一郎会長、丸山かず子副会長、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、小宮山好豊委員、齊藤實委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、松山慶子委員、永井正一委員、宮坂雄一委員、宮下正明委員、村松正孝委員 （【欠席委員】池田佐代子委員、佐藤重喜委員、中澤ゆかる委員、宮崎涼委員）		
市側出席者	片山丸子地域自治センター長、芹澤センター次長兼地域振興課長、水野地域振興課政策幹兼丸子地域教育事務所長、清水市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、翠川地域政策担当係長、清水地域政策担当統括主査、澤山地域政策担当主任		

< 会議場所：丸子地域自治センター 4 階講堂 >

会議次第

- 1 開会（センター次長）
- 2 あいさつ（会長）

皆さん、こんにちは。第 12 回の丸子地域協議会をご案内申し上げましたところ、ご参集いただきまして有難うございます。

さて先日、第 3 回の市民活動団体交流会を開催いたしました。委員の皆さんには積極的に参加を頂き、実のある素晴らしい会議であったと思います。ご苦労様でした。

2 月も終わるという中で、本日は暖かくて気持ちがいいわけですが、先般 14 日 15 日の大雪は、経験したことのないような大雪でした。その後、1 週間位は雪かきに追われ、家から出られないというような状況でした。皆さんも大変だったと思います。

本日は、先月の地域協議会で要望のありました飯沼と腰越の自治会から、今問題になっている事項についてお話を伺うことに致しました。

報告事項等、よろしくご審議の程お願いします。大変、ご苦労様でございます。

- 3 自治会からの状況説明（概要）

（会長）前回 1 月の協議会において、飯沼と腰越の 2 自治会から、現在の自治会での住民反対運動について丸子地域協議会に説明したいとの要望がありました。

皆さんにもおはかりしまして、住民の皆さんも大変関心をもっておられるということもあり、本日、両自治会からお話を伺うことと致しました。

協議会としましては、自治会の反対運動に対して賛否を表する立場ではありませんが、住民の生活にも係わることであり、現状を承知しておきたいと存じます。

それでは最初に、飯沼自治会から状況説明をお願いします。

(1) 飯沼自治会：城平地籍メガソーラー建設問題対応について

説明者：飯沼自治会

飯沼自治会の城平地籍（大沢周辺）設置計画のあるメガソーラー計画（10メガワット級のソーラーパネルを設置する事業）に関する反対の趣旨等について説明

(2) 腰越自治会：獣肉加工処理施設の設置反対について

説明者：腰越自治会

腰越自治会の町組地区内に建設計画のある獣肉加工処理施設に関する反対の趣旨等について説明

4 報告事項

(1) 平成26年2月14日(金)・15日(土)の大雪災害について

資料に沿って、自治センターを中心に災害対応について説明。日ごとの丸子地域自治センターとしての作業状況の説明。（下記概要）

（センター次長）除雪主管課の建設課については、住民からの電話による除雪依頼や要請が多く、建設課職員は現場対応をしている中でその対応に苦慮した。現場の対応については建設課職員の他、自治センター各課からの応援も連日行い、2月15日から21日まで、連日の昼夜の対応を行った。等

（積雪量）丸子消防署観測 2/14：39cm、2/15：47cm 計86cm

（通行止状況）市道砂原峠線全面通行止め（2/15 AM10:00 2/20 AM10:00）

国道254号三才山トンネル有料道路全面通行止め（2/15 AM9:30 - PM16:35）

市道丸子小牧線全面通行止め（2/15 AM9:00 - 2/18 PM15:00）

国道254号鹿教湯温泉から平井寺トンネル出口（2/15 AM7:20 PM16:35）

（幹線道路の除雪状況）2/25現在

丸子北御牧線、腰越北佐久線、下丸子腰越線等の幹線道路については2/24現在で、2車線を確保。必要な路線については排雪作業を実施。

（集落道路の状況）2/15時点で、各自治会の除雪の要望に対応するため、自治会長、地区担当者、担当者と相談しながら除雪を実施。

（市内路線バス）2/15から運行を休止していた路線バス（5路線、JR含めて6路線）は2/21に運行を再開。

（循環バス）丸子地域まりんこ号は、今週からの運行を目処に、バス会社と調整中。

（今後の予定）概ね除雪は完了。雪解けの状況を見ながら、危険箇所については自治会と相談しながら対応予定。

<質疑・応答>

（委員）今回の大雪で雪かきをしながら、自治センターの方は頑張っているんだろうなと思いつつも、しかし、まわりの方から聞くのは、除雪が遅いと。雪国から来た方に聞くと、こんなことにはならないと。むこうは雪が降ったらすぐ除雪が行われるということですので、丸子地域または上田ではどの程度雪が降ったら除雪が行われるのか。その辺のガイドラインが決まっていましてお教えください。協力会社に依頼するには、今どのくらいの協力会社があって、どの程度の協力が得られるのか。

(建設課長) 10cm以上降りますと、除雪車が対応するようになっていきます。32路線あり、約57キロ程ありまして、11社で担当しています。これらの業者の中には国道県道も併せて受け持っている業者も多く、担当する距離が長くなります。このような大雪時には対応が難しくなります。この辺りは30cmふれば大雪になる。今回の雪は非常に多く非常に苦しんだわけですが、国道県道は大雪のため渋滞になりまして、その渋滞のために除雪車がなかなかそこにたどり着けないという悪循環もあり、業者は一生懸命やっているんですがご迷惑をおかけすることになりました。

(委員) 今回、小学校の休校の大きな原因の通学路の除雪が難しかった。除雪が全然進まなかった。通学路の除雪については、どのようにお考えになっていますか。

(建設課長) 歩道の除雪につきましては、従来から地域のみなさんをお願いしております。市では車道の除雪、歩道の除雪につきましては地域の皆様、PTAの皆様をお願いしています。このような大雪は想定してございませんでしたので、今後の検討とさせていただきます。

(委員) 私の娘の通学路には歩道が無く車道だけのところなのですが、全然除雪が進まなかった。学校に通うのが大変な状況でした。ですから、通学路を把握していただきまして、歩道でも地域の方をお願いできない所と、歩道が無く車道を歩かなくてはいけない所は是非除雪を考えていただきたい。

(委員) 120年に1度の大雪と言われておりますが、26日の朝、丸子北小学校で火災・誤作動という事で有線放送があった。その辺の原因は把握されていますか。

(センター次長) ここ数年、学校の火災報知機の誤作動による火災報道が何件かありまして、今回の北小に限ったことではない。消防署長がおりませんので、その辺りまでしか言えないのですが、老朽化が何箇所かで出ているのでその関連かと考えられます。

(委員) 152号線の大屋から丸子の街中が今回非常に大混乱が続いたわけですが、ここは県・建設事務所の担当部分ではありますが、これは市との関係で市は全く152号線にはノータッチなのか。市としての働きかけとかを行う対象ではないのか。今回は何日間もあそこが大混乱したのはどういう原因だったのか。他の上田市の真田から市街に下りてくる道路は割合に早くからスムーズに下りて来れるようになった。152号線だけが非常に混乱が続いたということの情報があればお聞かせください。

(建設課長) 152号線は非常に路面状況が悪くて、圧雪になり路面のコブ状の箇所が非常に多かった。市の立場と致しましては、その状況を建設事務所のほうに知らせ、早期の対応をお願いしました。先週の水曜日あたりから飯山から大型の排雪機が入りまして、週末には除雪が完了しました。圧雪が原因で、スムーズな走行が困難な状況が原因でございました。

(委員) 120年に1度という大雪ですが、各ご家庭での被害状況は把握されているか。台風の後などは床上浸水などの調査などがありますが、そういった被害状況調査は行われるのか。

(市民生活課長) 現在のところ、申し出のあった1件のみ調査に伺った。基本的には台風等の災害と同様に調査を行います。この状況でしたのでなかなか調査に行くことが出来なかった。連絡いただいて、必要な調査には伺います。減免申請のための確認等はさせていただきます。

(委員) 補助金の関係でということではなくて、単純に雨どいが損傷したとかといった被害もあった。こういった事例もまとめておいていただけたなら、次に気をつけようかなという助けにはなる。

(市民生活課長) 基本的に調査は、固定資産税の減免や家屋の保険のための罹災証明という形で考えております。おっしゃられた被害状況の事例も、検討してみます。

(委員) 塩川から藤原田に上っていく道なのですが、大きなトラックが入ってくるとすれ違い出来ない状況がかなり続きました。ただでさえ、雪が無くてもすれ違いが大変なのですが、除雪した後も踏み固められてしまい、一番遅くまで雪が残っていたように思います。

あと気がついたことですが、私が婦人消防団に入っていたときには、大雪が降った際には消火栓とホースの入っている消火箱と、ごみの集積所を自治体でちゃんと雪かきしましょうとなっていました。大雪だと消防車に来るまでに時間がかかりますので、なるべく自分たちの力で消火作業が行えるようにいうことを受けていた。実際に回ってみたら、結構雪に埋もれていたりして、そういうすべき作業を知らない方も多かった。こういうことは、地域によく周知していかなくてはいけないのではないかと感じました。あと、小学生が少ない地域だと、通学路の雪はきをする人が誰もいない。自宅に小学生がいないから、関係無いという方も多くて、なかなか通学路も雪がかけない。こういったことも地域で考えていかなくてはならない課題だなと思いました。

(委員) 120年に1度の大雪と言われる今回の大雪ですが、これはまた120年後ではなく、いつ起こってもおかしくない地球環境である。地球がもう温暖化で壊れていますから。それはもう予測できないこと。これを教訓にして地域住民としてどういう対応をしていくのか。行政としてどういう対応をしていくのか。対応するネットワークを今後構築していく必要があるのではないかと思います。

去年の大雪のときは、この地域協議会でも多くの苦情が出たわけですが、今回はその分、対応が早かったのではないかと私は思います。この大雪に行政がとても早く動いてくれたのではないかと思います。こういう危機に地域住民としていかに対応していくのか。そういうことがやはり必要だと私も感じている。

(委員) 自治センターの対応は、かなり良かったと思っている。皆さんのお話の通り、今後どういう危機管理をやっていくのか。10cm以上降ったらこういう対応であるとか、50cm以上ならこういう対応とか、そういうものが市役所の中だけでわかっている状況は非常にまずい。優先順位の除雪も大事。私たちの工業団地の中は、まだ大型車の行き違いは出来ない。現在、物流が動かなくなっている最大の原因。私たち製造業側からすると、物流が動かなくなると完全に動きが取れなくなる。そうすると、学校と同じように企業が休業に追い込まれる。そういう事態に対応マニュアルも必要なのではないかと。

最優先で18号線を除雪する。どこを通ったらいいのか。どういう対応をしたらいいのか。これらの情報は一切私たちにはわかりません。出来る限り物流を改善していただくなくては。今回の大雪だけの災害に済めばいいが、複合災害になった場合にはスーパーやコンビニに物がなくなってしまう。買占めが起きて、何も食べ物なくなってしまう。手に入らなくなるという、除雪以上の問題が絡んでくる。市全体でこれらを考えていただくと同時に、各自治会に対して、こういう対応を取りなさいという指示を出していただきたい。これは自治会が考えるという問題よりは、市側が提示しなければおそらく回らない。自治会に丸投げされてもおそらく不可能。マニュアル化される、標準化される体制づくりを是非とも市のほうで、今後の危機管理としてやっていただきたい。

(センター長) 今後のあり方と言う部分で、各委員さんから建設的なご意見を頂き有難うございました。自治会長連絡会でも、各自治会長の皆さんから同様なネットワークづくりや情

報共有化、自治会と市との連携、そういう部分での総合的な提案をしていただきました。

なかなか難しい部分もありますが、今おっしゃられた意見を自治センターとしても、自治会長連絡会の皆さんとも協議しながら構築にむけて進めて行きたいと思っています。

(2) 分科会及び研究会での検討状況について

(ア) 公共交通に関する分科会

(分科会長) 担当委員の変更からはじめての分科会でしたので、初めての委員に建設課からの資料を説明と、まりんこ号のラッピングの話をしました。会議概要のとおりです。

<質疑・応答> なし

(イ) 丸子地域の子育て支援に関する分科会

(分科会長) 来期に申し送りすべき子育て支援の柱をどうするかという事で、話し合いました。一つとして、研究会のアンケートにもありましたように、相談するにも受け皿がないといったような意見がありましたし、あっても周知されておらず相談しにくいなどの意見がありました。それを受けて、丸子地域に子育ての不安を解消できる受け皿の設置を検討する。2番目として、分科会が中心となって、子育て中の方や女性団体等々、意見交換をして、どのような子育てサポートが出来るのかを今後話し合っていく。3番として、丸子地域における子育てサロンの継続的充実が必須です。子育て支援センター等の施策に反映させていくということでしたので、できるだけ早く意見書を作成し、子育てサロンの継続と充実を図っていく。以上の3点について、共通認識としました。

<質疑・応答> なし

(追加項目) 第3回市民活動団体交流会実施について

次第にはなかったが、2月23日開催の市民活動団体報告会について報告と総括を挿入

説明者：市民活動団体交流会実行委員会座長

(座長) 先日は大勢の皆さんに御参加頂き有難うございました。早速、報告書にまとめていただき、事務局の皆さん有難うございました。

前半の報告会のところで、パネルについて担当者と懇談する時間がありましたので、あとの交流会にスムーズに入っていただけだと思います。パネルを前にした報告会では名刺を交換する方もいらっしゃいましたし、活動に関心をもって個人的にいろいろ伺う光景はとてもよかったと思います。

1 から4までの各グループの報告をよくお読みいただき、今後の地域協議会として取り組む課題を探っていきたいと思います。

第1グループですが、「地域食を考えよう」ということで話し合いました。具体的なテーマを設けることによって、話の取っ掛かりをつけて行きたい。その中で、何かヒントになることを、これいいねと共有できる情報を交換し合えたらいいのではないかとということで行いました。さらにねらいとしましては、個々の事業体に活動をつなげていく線をさぐり、それを結び付けていく核になるグループが出てきて欲しいということがねらいとしてありました。

第1グループの場合、地産地消を推進している団体と、荒廃地対策のためソバを作っている団体との間でのかなり具体的な連携の話が出てきたようです。それから、わらび、山ぶき、すぐり、ブルーベリーなどを作って、それをブランド化の方向に持っていけるといいねという発想もありました。食を通して、連携が実現しそうな方向が見えてきたというまとめになっています。

第2グループですが、「花マップ作りませんか」のテーマでお集まりいただきました。花木

に関するグループは大変多いのですが、今のところそれぞれで行っております。連携して何かをしてみたいというところまではいっていないが、話し合いの場を地域協議会がつくってくれるのなら、中心的な役割を担ってもいいという団体も出てきたように聞いております。

第3グループは「地域の宝を見つけよう(里山づくり・自然景観)」ですが、これもそれぞれの地域の点としての花づくりが、たとえば、内村が花街道になればいいといったような線のつながりが出来たらいいという積極的な意見も出ておりました。

それから、箱山城・桜ロードの会からの発言では、活動を進めていく中で思いがけず埋もれていた地域の歴史が見えてきたという、今後の活動に素晴らしいことがありました。同時にこれから事業を立ち上げようとする団体に対するアドバイスなると思いますが、事前の調査が十分にされていないと、手続などで負担が大きくなる。これから事業を立ち上げようとしている団体はそのあたりもよく考慮して活動をするよくだらうという話もありました。

第4グループは、「まちなかの魅力を探そう(観光・地域おこし)」ということで、まず自分たちがどういうまちに住みたいと思っているか、どんなまちであつたらいいのかの夢を語っていただくことから始まりました。自分のふるさとがこういうところであると話ができるように、自分が住んでいるところの足元をもう一度見直してみて、それぞれのルーツを考えることも大切な事という意見もありました。それから、この時、ゆうあいまるこさんからブラジルのお菓子とブラジルコーヒーをご提供いただきまして、それを見ながら食べながら、ともだち英語の会とゆうあいまるこさんが、お料理をとおして語学交流が出来たらいいなということで、是非やりましょうという話し合いがされておりました。

それから、鹿教湯温泉で活動される方々が鹿教湯温泉のイベントのところに来てくださいというお互いの誘い合いもありました。

今回、貴重な意見が沢山出されましたので、これをもう少し深く読み込んで整理をして、何らかの形で次期の活動の中に提案していきたいと思っております。

<質疑・応答> なし

(3) わがまち魅力アップ応援事業選考要領の変更について

(センター次長) 選考要領の変更がありましたので、変更箇所のみ説明します。今回、第3回の応募がありませんでしたので、6月からの適用ということになります。

選考について、申請数により内容説明又は質疑の時間を調整することは可能になり、十分な審査時間を確保することで、時間制限が緩和された。また、集計の際に、最高点・最低点を削除して平均点を出し、その結果も審査の参考とする。極端な採点(高得点あるいは低得点ばかり)によって平均点が左右されることから、点数の分布にも着目し、単に平均点だけで判断することのないように留意する。

採点の決定については、以前は1～5の数字の5段階でしたが、今回は5段階(A～E)で採点をする。また、安易(感覚的)に全てE評定又はD評定と判断しないように留意する。

<質疑・応答> なし

(4) 不燃物3分別モデル事業について

(会長) 前回の会議でも多くの意見が出ており、ごみ関係は住民の大きな関心事です。市民生活課から説明をお願いします。

(市民生活課長) 丸子地域では、合併以前から不燃ごみを「廃プラスチック」「金属類」「ガラス・陶磁器類」の3つに分別して収集を行っており、平成20年度からモデル事業として実施しています。平成23年度に、モデル事業の成果を検証し、廃止について自治会アンケート

ートを行ったところ、分別方法を統一してコストが低くなればとの条件回答が多く、見積りにより検討した結果、むしろ処理費がたかくなると判断したため、モデル事業を継続しました。しかし、本来分別により再資源化が図られ、処理費用が安くなるはずですが、3分別によるメリットが見られない状況であり、また、特に高齢者の方々にとって分別方法がわかりにくいなど課題もあります。「分別」は環境負荷の低減にとって重要なことですが、分別における市民負担の軽減を図る必要もあります。今後、モデル事業のあり方を検討してまいります。

現状ですが、平成24年度の状況：再資源化と処理残渣の発生ですが、廃プラと金属類、ガラス・陶磁器類の3つの3分別です。表は発生と比率を記したものです。丸子地域では、廃プラが40.33%、金属類が41.23%で、合計で81.55%を占めています。ガラス・陶磁器類は18.45%です。その他の地域は、廃プラが65.96%、金属類が24.04%、で90%を占めている。ガラス・陶磁器類は10.00%。廃プラスチック類と金属類は、100%再資源化されています。丸子地域では、金属類の構成比が高く、上田その他地域では廃プラスチック類の構成比が高くなっています。また、処理残渣の発生では、丸子地域の発生率が高くなっています。

処理費用の現状について、収集運搬費については、丸子地域はkg当たり29.92円ですが、上田地域は13.40円で16.52円安くなっている。真田地域は28.35円で丸子地域より1.57円安くなっている。武石地域では30.45円で、丸子地域に比べ0.53円高くなっています。

選別等処理費では、丸子地域ではkg当たり18.66円ですが、上田その他地域では14.86円で丸子地域に比べ3.80円安くなっています。

収集運搬費では、世帯数が約半分の真田地域に比べても若干高い状況です。車の費用や人件費がかかっているのだらうと思います。選別処理費では、世帯数が丸子地域と比べて約6倍の上田その他地域の処理量が多いことから単価は低くなっていますが、単価の差が、23年度は2.55円であったが、24年度では3.80円と開いている状況がみられます。

今年度に入りまして市民の皆様からご意見がありました。「分別のわかりにくさ」ということで、分別が複雑でわかりにくく、忙しい人のほか、特に高齢者には負担が大きい。小型家電を分解したら収集されなかった。複数の材質が混合しているごみの正確な分別は困難である。わかりにくい分別は不法投棄の一因になると思う。同じ度合いに分別しても、収集業者によって収集されたりされなかったりするのをおかしい。

「保管の困難さ」では、屋内での不燃ごみの置き場がない。長期間保管することは困難である。ガラス・陶磁器類は袋が一杯になりにくく困っている。

「統一への意見」として、同じ上田市の中で地域によって分別方法が違うというのは納得できない。モデル事業の継続が地域住民の総意のように扱われているが、多くの住民はむしろ3分別の中止により負担が軽減されることを歓迎する。といったご意見があります。

今後の進め方ですが、自治会や関係団体の意見を集約します。平成26年4月の自治会長連絡会において、モデル事業の検証資料等を提出し、全自治会や関係団体の皆様にアンケート等を行い、分別方法を協議するなかで、丸子地域の意向を集約して参ります。実は以前も自治会アンケートを行いました。再度検証結果とかこれからかかるコストとかを検討させて頂いて、再度ご意見を伺いたいと思います。そして、アンケート結果をご報告させて頂いて、自治センターと致しまして、中間処理施設のあり方等も関連するのですが、分別方法を出来るだけ早期に決定します。その後、地域住民への周知を致します。今後ともご協力をお願いします。

< 質疑・応答 >

(委員)今の説明は理解しにくかったのですが、「上田ほか」という場合は業者でまた3分別をして、その数字がここに出ているのでしょうか。

それから、資料の裏面の統一への意見のところ、「多くの住民はむしろ3分別中止により負担が軽減されることを歓迎する」とある。これは、どこでどういう風にとったデータなのか。

(市民生活課長)1点目のご質問について、上田ほか地域は一つの袋で集まってくる「廃プラ、金属類、ガラス・陶磁器類」のデータですが、破袋しまして業者のほうで分別して計量したものです。

2点目のご意見に関しては、寄せられた意見をそのまま転記したものです。意見を寄せられた方が、どういう立場でどれだけの意見を集約したかはわかりません。

(委員)この書き方からすると、こういう意見が大部分であると感じるのがあたり前なのではないか。そういう意見があったということのみで、多くの住民と記すのは問題では無いでしょうか。

(市民生活課長)すみません。頂いた意見をそのまま書いてしまいました。

(委員)モデル事業の現状という事で、地域ごとの排出量と残渣が出ていますが、この1枚の資料を見ていてもよくわからない。一人当たりで、丸子地域とその他の地域では、ごみの出し方の量についてはどの位の差があるのでしょうか。

(市民生活課長)一人当たりとか、世帯あたりとかでは、捉えていませんでした。今後、協議を進める中で、資料として出させていただきますのでよろしいでしょうか。

(委員)一昨年でしたか、自治会長会にアンケートがございました。その中のほとんどは、市民が楽になるのならそのようにしていただきたい(3分別廃止)という意見が多かった。

(委員)石井は大屋橋のこちら側(丸子側)と向こう側では、集め方が違うのです。

溶融炉を使うと、プラスチックでも紙でも、何でも一緒に集められる。だから、丸子と上田では違うのかな、と考えていた。

(市民生活課長)溶融炉に関しましては、資源循環型施設が検討される中で、当初はガス化溶融炉という考えもあったようですが、現在は今と同じストーカ炉を考えています。上田全体で一つの炉にします。

(委員)ごみ問題ではいつも、この丸子の不燃ごみ3分別モデル事業が槍玉に上がるのですが、ごみ問題というのは地球環境にとってどうなのか、そういう観点からごみをどのように処理していくのがいいのか、私たちのごみをどういう風に考えて捉えていくのか。リユースとかリサイクルとか言われるのですが、そういう議論をされないままでいつも分別に関して、お金がかかるとか、かからないとかの観点だけなんです。本当に私たちの地球の環境を考えていったときに、全体でごみというものをどういうふうにつまんでいくのかという、行政としてもそういう捉え方でやっていかないと、ごみ問題はうまくいかないと思う。今は埋立地が少なくなりつつある現状もある。人間にとってごみって何なのかという部分も捉えてやっていく、啓発とか啓蒙とかを折角ごみアドバイザーもいるのですから。そういう話し合いを自治会とか地域でやったことは無いですよ。観念論かもしれませんが、そういう基本のところから考えていかないと。

(市民生活課長)おっしゃるとおりです。今回、雑がみの分別回収のこともあります。自治会で開かれる説明会の中では、ごみの減量化というところからの取り組みにつきまして話

をさせていただきたいと思います。3分別問題だけではなく、いろいろな部分もございます。可燃ごみの中にも8%近くの不燃物が混入している。それをしっかり分別するだけでも大分違うんですね。そんなことも含めて、いろいろとお話させていただきたいと思う。行政の取り組み方も、もう少し大きなエリアの中から捉えるように努めて参ります。

(委員)今おっしゃったことはわかるのですが、ただ資料としてこういう形で、例えば丸子地区の収集運搬費は他より高く、選別処理費も高いというふうに出ている。やはり、基本的には分別することがコスト的に意味ないというふうに聞こえるのですよね。今、委員が言われたように、例えば収集運搬費ですが、どうかたちでやってこういう数字になったのか、その中でさらにコストを切り下げていくような要素は無いのかどうかとか。選別処理費も同様です。そういう事が全部示された上で資料が出てくるのであれば、ある程度は理解できるが、数字だけポンと出てきて、だからこうだよと言われるのは今の説明とは違って、やはりコストで全てを考えていくというふうに受け取らざるを得ないではないか。

背景となる数字とかをきちんと出した上でこの資料を出していただかないと、世論を誘導するような形になってしまう。正確に、背景となる数字も出していただきたいと思うのでよろしくをお願いします。

(市民生活課長)本日、出しました資料は業者の稼働状況だとか、収集運搬の台数とかは出ていませんが、今後の資料には全体の状況がわかるように取り計らって参ります。決して、世論を誘導することにはならないようにはしていきますのでよろしくをお願いします。

5 その他

(1) 次回以降の協議会日程について (事務局より説明)

3月13日(木)午後1時30分～ 丸子地域自治センター4階講堂

魅力アップ応援事業の新規の審査なし

4月以降の第5期の協議会日程について:

4月15日(火)委員委嘱式、その後第1回の丸子地域協議会を開催

(2) その他

(ア) アンケートの実施について

(会長)「第4期地域協議会を振り返って」と題された協議会委員を対象としたアンケートです。

(センター次長)このアンケートは、上田市の全地域協議会を対象に行うものです。会長のご承諾を得ましたので、皆さんにお願いするものです。今後の地域協議会の参考にしたいというものです。次回の地域協議会までにお出してください。

(会長)その他、全体を通して何かございますか。

(委員)本日、飯沼自治会と腰越自治会から状況説明がありました。この問題は、地域協議会にとって、重要事項として、市に対して意見を述べる対象として取上げてもらえないものでしょうか。住民の方からそういった質問がありました。

(会長)個人的には、今の段階では地域協議会でどうこうする状況にはないとの判断です。これから進行する中で、丸子地域全体として、協議会として審議して意見書を出していくべきだとの方向性がしっかり定まった時点ではと私は思います。今日の2自治会のお話は、起きていることをみんなで共有しようという段階であります。今後につきましては、進展状況

如何によっては、丸子地域全体の問題として意見書を出すべきとの委員の皆さんのご判断に至れば、そういう方向へ進むこともありうるだろう。

(会長)他にありますか。

(建設課長)市道丸子小牧線は平成 23 年度の春の落石事故で、それ以来河川道路によって通行しています。ようやくトンネルの貫通が間近です。貫通式は、この 3 月 18 日の午前 10 時から行われます。丸子小牧線トンネル貫通通り初め式を行ないます。本会を代表いたしまして会長にご臨席を頂く予定です。以上、お知らせでございます。

6 閉会